次世代へ平和の尊さを語り継ごう

戦後60年。戦争を体験した世代が少なくなっています。播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行い、今年も8月8日(月)～10日(水)、長崎へ「播磨町平和特使」を派遣。また、8月21日(日)～22日(月)には「広島平和のバス」を実施し、家族・友達と平和の大切さを考えました。

▲「播磨町平和宣言文」と平和大使認定書

「播磨町平和特使」としてピースフォーラムに参加して

播磨中学校２年
松田（まつだ） 瞭子（りょうこ）さん

参加型平和学習Ⅰで私は、日本全国から集まった知らない人たちと班になり、戦争につながる問題をいくつかあげ、その解決策を話し合いました。話し合いの中で、私が考えなかったような意見が出たりして、こんなことを本当にしたら平和につながりそうだなと思いました。参加型平和学習Ⅱでは、Ⅰで話し合ったことを基に「平和にはこれが必要だ」というものを選び、播磨町の４人で播磨町の平和宣言文を考えました。この宣言文は、平和につながることがたくさん書いてあります。私は、この宣言文を播磨町に住んでいる人、みんなに知ってもらいたいです。また、このピースフォーラムに、兵庫県から参加したのは私たち播磨町だけなので、兵庫県の人にも知ってもらいたいです。

長崎に行って学んできた戦争の悲惨さや平和の大切さを自分自身でよく考え、友達に教えてあげたりしたいと思います。そしてこれから、世界中から核兵器と戦争がなくなって、全ての人々が笑って過ごせる世界にしていきたいです。

播磨南中学校３年
藤原（ふじわら） 範人（のりと）さん

戦争は本当に残酷で、特に、原爆資料館の写真を見た時には、言葉を失ってしまいました。体中の皮膚がベロベロに垂れ下がった人、見るも無残な姿で焼け死んでいる人の写真が何枚もあったのです。今も、ケロイドなどの原爆後遺症やショックによる心の傷で苦しんでいる人がたくさんいます。それなのに世界の国々は、今も核を保有し続け、新型の核兵器まで開発しようとしています。身近な所でも残念なことに犯罪が多発し、平和の大切さ、ありがたさを忘れている人が増えてきています。このままでは、過去の悲劇を繰り返すことになりかねません。

戦争は、二度とあってはならないのです。二度と起こさないようにするためには、一人ひとりが戦争の悲惨さを知り、それを伝えていく必要があるのです。そして、身近な所から小さな平和を作り続けていく必要があるのです。僕は、播磨町平和特使として、これらのことを訴えていかなければならないと思いました。

長崎を最後の被爆地にという長崎の人々の願いを、皆さん一人ひとりの手で実現していきましょう。

播磨中学校２年
加藤（かとう） 麻未（まみ）さん

私は、長崎へ行って戦争の苦しさや戦争の憎さ、今も苦しんでいる人がいることなどを学びました。平和資料館では、服が破れて体にくっついてぶらさがっているのかなと思っていた写真の解説をよく読むと、それは体のあちこちの皮膚がベロンベロンにはがれているものでした。見ていられませんでした。驚いたのは、高温で溶けたビール瓶です。そのビール瓶は、高温で溶けて５本くらいが１つのかたまりになっていました。すごく熱かったんだろうな、人も苦しんで亡くなったんだろうなと思いました。原子爆弾を落としたアメリカは「戦争を終わらせるために落とした」と言っています。しかし、それは一時的なことで、今も絶えずどこかで戦争が起こり、そして何も関係のない人がどんどん死んでいきます。私は、どれだけの人々が苦しんだり、亡くなったりすると気が済むのだろうと思いました。また、助かった人でも体や心の傷が取れずに今もまだ苦しんで生きています。その人たちの人生にどう責任を取っていくのでしょうか。

播磨南中学校３年
柴田（しばた） 光貴（こうき）さん

博多から長崎に向かう電車の中、アメリカで映画監督として活躍している人と出会いました。原爆についての映画を作ろうとしているらしく、僕たちはインタビューを受けました。その内容はとても深いもので、本当に深く考えさせられました。その人は原爆について強く責任を感じているらしく、色々と平和活動を行っているようでした。僕は、その人の考え方に感動を覚えました。僕たち日本人も、そういった人々と協力して、平和な世界を作らなければならないと改めて思いました。

ピースフォーラムで播磨町平和宣言文を考えました。司会者の方が最後に言っていたことがとても印象に残っています。「君たちの宣言に間違いはない。あるとすればこの宣言を実行せずに終わってしまうことだ」。この言葉通り実行しなければ意味はありません。まず友達と一緒に身近な平和を作っていこうと思います。播磨町平和宣言を嘘にしないように、懸命に頑張りたいと思います。

家族で学んだ広島平和のバス

広島について、原爆ドームを見たときは、建物がめちゃくちゃにこわれていておそろしくなった。

資料館で見たものはひさんだった。一番信じられなかったものは、馬の鼻と足がとけて、なくなっているのを見たときだった。戦争はおそろしいと思った。戦争をしてもだれも喜ぶ人はいないのに、なんで戦争をするのかわからない。こんなたくさんの人たちが死んでしまう原爆を作ったのが、人間だと思うと一番こわいものは人間だと思った。もう戦争がおこらないようにしてほしい。

ぜったいに戦争してはいけない

播磨南小学校４年
三宅　奈津美さん

平和記念資料館で一番印象に残ったのは、黒く曲がったつめでした。黒くて長くて曲がっていたのがとてもこわくておどろきました。あのつめがはえてきた人は、とても悲しかったんじゃないかと思います。

今回、広島に行って、病気の後遺症に苦しんでいたり、家族とはなればなれになった人がたくさんいることを知りました。今後、こんなことがないようにぜったいに戦争をしてはいけないと思います。

一番怖いのは原爆を作った人間だ

播磨小学校４年
関　裕貴くん

広島は原爆が落とされた所と聞いていたけれど、あまり想像できなかった。

原爆を体験された方の話も聞きました。学校で勉強をさせてもらえず、戦争のために仕事をしていたそうです。私は、今、普通に学校で勉強しているけど、普通のことが普通にできることに感謝しなければと思いました。

戦争は、たくさんの人の命やものをこわして、生き残った人も苦しめて、生まれてくる赤ちゃんも苦しめて、本当に怖いです。ぜったいにしてはいけないと思います。

普通にできる幸せを実感

播磨小学校４年
山中　結香さん

復興した広島

蓮池小学校５年
吉田　智史さん

平和記念資料館で、広島に落とされた原爆を見て、小さいのにすごい威力をもっているんだと思い驚きました。

その他に原爆で傷をしている人形を見たとき、原爆をうけた人はこうなるんだと思いました。

それと、60年前、原爆が落とされた日は、家もほとんどなくなったのに、今の広島では家もたくさんあり、いろんなたて物もあります。60年前原爆が落とされたのに、今は元通りになっているのがすごいと思いました。

平和に暮らしたい

播磨西小学校６年
沼田　真帆さん

原爆のことは、ちょっと知っていておそろしいと思っていたけど、平和記念資料館で、黒焦げになった弁当箱や焼け焦げた学生服を見て、原子爆弾の力はすごく大きかったんだと思った。

爆心地から1キロ以内のところではほとんどの人がなくなり、被爆直後、急性障害で様々な症状で多くの命がなくなっています。10数年経って発病する白血病やガンでなくなる方もいます。

私は、もうこの世から原子爆弾がなくなって、平和に暮らしたいと願います。

平和祈念講話会

8月2日(火)、中央公民館で「平和祈念講話会」が行われました。

今年も町内の中学1年生と住民の方約370人が参加。広島で被爆を体験された山内正春さん（古田）のお話に耳を傾けました。

山内さんは、当時の様子などを語られ、「平和は皆さんの身近にあります。友達や家族を大切にし、今を生きてほしい」と話されました。

▲手話通訳と要約筆記のボランティアの方々にお手伝いいただきました。